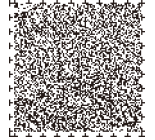




平成 29 年 3 月 1 日
第 113 号

発行 福岡視力障害センター
〒 819-0165 福岡市西区今津 4820-1
(電話) 092 (806) 1361
(FAX) 092 (806) 1365

ホームページ
<http://www.rehab.go.jp/fukuoka/>
印刷 社会福祉法人 福岡コロニー



卒業生に贈る言葉

所長 後藤 英信

「こだわりを持つ」

卒業おめでとうございます。みなさんのたゆまぬ努力の結果がこの晴れの日を迎えられたものご心から敬意を表します。

みなさんは、あんまマッサージ指圧師或いは、はり師きゅう師として、それぞれの地域や職場で生活をしていくこととなります。そのような中で皆さんに期待することは「こだわり」をもった職業人となってほしいことです。こだわらないことが、器が大きいとか自由闊達だと評価されることがあります。しかし、何もこだわらずにいると、無気力・無関心になってしまうという懸念を感じます。優秀な職人さんはこだわりが強いと言われ

ています。

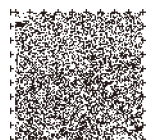
適度にこだわりを持っているほうが、芯があると感じます(意固地や頑固とは違います)。また、こだわりを持つことは物事に対して識別ができ、自分に対しての到達点の基準にもなります。そして、そのこだわりが強ければ到達点も自ずと高くなり、「簡単には妥協しないぞ」という強い決意にもつながります。結果として目標ができそれに向かって上達や進歩をしていくことと思います。

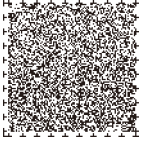
これからは、「こだわり」を持ちつつ自分の専門分野を超えて多くの人々と交流し、多様な意見に耳を傾けながら、自らを磨きあげてください。卒業生の皆さんの今後の活躍と社会人としての健やかな成長を心からお祈りします。

同窓会会長 楠原 宏和

第二の人生へ向けて再出発するんだという強い意志を持ち続け、三年間のセンター生活を頑張ってきた九名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。これから皆さんが進んで行かれる、あはき業界は決して平坦な道ではありません。しか

し、皆さんの熱いエネルギーとセンター魂を持ってすれば道は開けるでしょう。「やれば出来るんだ」この気持ちを大切に、前進して下さい。今後のご活躍を期待します。皆さんに幸多からんことを祈念致し、あいさつと致します。





卒業生からのメッセージ

3年A組

青野 寛さん 3年間を経て

あっという間の3年間でした。今迄では経験したことのない様々な年齢層の人との触れ合いが新鮮でした。眼が悪くなり今まで出来たことが出来なくなり不安な時期もありましたが眼が不自由でも出来ることを考えここに来ました。なんとかやっていく自信が出来ました。3年間お世話になりました。

匿名希望さん

3年間、温かく接して下さった職員の皆様、利用者の皆様に、心より感謝いたします。当センターで学んだことを活かして、これからも頑張っていきたいと思います。

M. Sさん

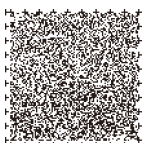
入所する前は不安もありましたが、振り返るとあっという間の3年間でした。勉強だけでなく宿舍での生活など全てが良い経験となりました。多くの方々にお世話になり、本当にありがとうございました。

T. Sさん

入所した時は3年間勉強等不安がありましたけど、あっという間に3年が過ぎて自分でもよくやったなあと思いました。卒業してからがスタートですので、これから今まで習ったことを活かして頑張りたいと思います。3年間ありがとうございました。

匿名希望さん 3年間を振り返って

網膜色素変性症と告知をされてから、動揺と不安の中、半年後にはセンターの入所手続きをしました。将来の職業的備えとしてこの選択をしたことは正しかったと思っています。私にとっては病気を受容する3年間であり、孤独と忍耐と葛藤



の日々でした。そして今、恐怖は柔らかな優しいものになり、身に付けた知識や技術は自信になっています。それはここで接してきた周囲の方々の在り方のお陰だと感じます。支えて下さった職員の皆様、学友のみんなへ心からの感謝とこれからの幸せを願ってお別れの言葉にしたいと思います。

K. Tさん

私がセンターに50歳で入所し、約30年ぶりの座学の辛さ衰えていく記憶力との戦いで、1年生の時は真剣に勉強し、2,3年生では何となく勉強して無事卒業出来ました。私が辛い時(ほとんど)に思い出したのは退職された伊藤先生から「腐らずに頑張る」の言葉を心の中で思い返し乗り切りました。3年間私に携わってきた皆さんに対して本当にありがとうございました。

藤岡 太さん

在校生のみなさん、とても大変でしょうけど頑張ってください。僕も頑張ります。

R. Mさん

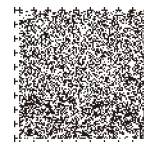
3年間、この施設にきてからあっという間でした。私はゴールボールがきっかけで、ここに来ることになったのですが、それ以外にもいろいろなことを教えていただきました。鍼が苦手だったのも、先生方やクラスメートのおかげで克服していくことができました。ここでの生活や経験を糧にこれからも頑張っていきたいと思います。お世話になりました。



S. Yさん

3年間お世話になりました。入学時は、鍼灸マッサージの勉強をすることが目標でしたが、今ではパラリンピック出場という新たな目標もできました。勉強と競技の両立が大変でしたが、皆さまの

温かいサポートのおかげで3年間過ごすことができ、ありがとうございました。これからも夢に向かって頑張りますので、応援よろしく願い致します。



卒業生へのお祝いの言葉

自治会長 佐藤 直人

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆さんには、普段の勉強のことから、生活面のことなど、様々な面でアドバイスをいただきました。本当にありがとうございました。皆さんが旅立られるのは寂しいですが、私たちも、皆さんに続いて羽ばたけるように、頑張ります。皆さんのご多幸を、センターから祈っています。

安田 晴幸(教務課3年A組担当)

卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。今年度は受験生ということで勉強や臨床に大変忙しい年だったと思いますが、本当にお疲れさま

でした。センターで学んだことが基礎となり、皆さんの進む道を究めていけるよう陰ながら応援しております。これから始まる新しい場所での活躍を心よりお祈りいたしております。

高橋 博(支援課3年A組担当)

皆様、ご卒業おめでとうございます。長くて短い3年間、大変お疲れさまでした。「首振り三年ころ八年」との言葉がありますが、これはいかな職においても当てはまるものと思っています。卒業により三療師の門口に立たれた皆様、これからも切磋し精進を重ね、ころころとよい音を響かせられるようお祈りいたします。

自立訓練について — 感覚訓練 —

平成28年度から本センターでは、感覚訓練(Sensory Awakening)を訓練として復活させました。本来、個々の訓練、例えば歩行訓練では、信号機のない道路の横断や電車の乗降等では聴覚、路面の変化では触覚、特定の場所では嗅覚を利用するなど様々な訓練を通して実施しますが、感覚機能の特徴、聴覚、触覚、嗅覚、運動感覚等について、感覚器官の情報受容量の大きさ、正確さなど、具体的な提示を行いつつ、集団で気づきを語り合うようにしています。

感覚は、一人ひとりの関心の持ちようにより異なる側面があり、集団訓練で行ない話し合うことで、各種訓練の中での工夫や気づきに結びついて

います。

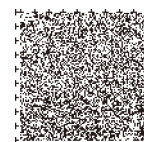
また、日常生活では視覚優位ではありますが、聴覚による構造的な環境把握や触覚によ

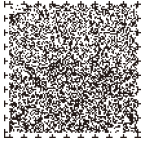


触覚のみでの形の把握

る再現性の確かさからそれぞれの感覚が信頼に足ることを実感できもします。

今後、更にそれぞれの感覚を確かなものとして活用できるよう様々なきっかけを作るための訓練素材を集め実施していくこととしています。





自立訓練利用者の福祉村での地域交流活動

平成28年7月21日(木)に松濤園(養護老人ホーム・救護ホーム)を衛藤宏章さんと仲松佳恋さんが慰問しました。衛藤さんは、地元大分で引っ張りだこのアマチュア落語家「盲目の噺屋ザトー」、仲松さんは沖縄県出身で大学時に唄三線を専攻されていました。落語で笑い声があふれたり、唄三線で癒されたり、一緒に歌ったりと松濤園の皆様にとって楽しい一時になったことと思います。松濤園の

慰問が好評で、8月24日(水)には今津公民館での講演依頼がありました。出し物の合間のお二人の噺(掛け合い)も息がぴったりで、この日も館内に多くの方々の笑い声が響き、唄三線で来場者を魅了しました。仲松さんは9月19日(月)に今津地区敬老会も慰問されています。そういうお二人も、昨年、自立訓練(機能訓練)を修了され、地元に戻られました。今後のご活躍をお祈りいたします。



衛藤さんの落語



仲松さんの唄三線

Eyeあいつェスタ

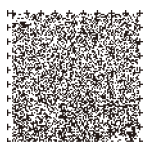
平成28年11月20日(日)に「さいとぴあ(所在地:福岡市西区)」で、当センター主催の「Eyeあいつェスタ」が開催されました。この「Eyeあいつェスタ」は、「視覚に障害のある方の仕事や生活について当事者ならびに一般市民の理解や知識を深められるよう情報提供すること」を目的に平成23年から開催され、今回が6回目になります。

内容は、①盲導犬とのふれあい・体験歩行②マッサージ体験③視覚障害者の歩行体験・視覚障がい者歩行誘導ソフトマットの使用体験④iPad体験⑤お水くみゲーム(アイマスクを着用してコップの目盛りピッタリにやかんの水を注ぐゲーム)⑥点字早打ち体験ゲーム⑦福祉機器の展示(ルーペ・遮光眼鏡・拡大読書器・音声機

能付き機器など)⑧音声家電(テレビ・炊飯器・IHクッキングヒーター)の展示⑨日常生活用具の



道下 美里さんの講演

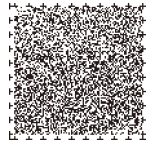


展示⑩相談コーナー⑪暗闇体験⑫オセロ大会⑬道下美里さん(リオデジャネイロパラリンピックの銀メダリスト:種目は視覚障がい者女子マラソン)の講演で、盛りだくさんの内容でした。道下さんの講演は、「すごく元気をもらいました。」「苦労された点、どういった心を持って日々生活されているか等を知ることができとても良かったです。」などのアンケートの感想が得られるほど、大変好評をいただきました。また、今回新たに追加された「お水くみゲーム」「点字早打ち体験ゲーム」「オセロ大会」は、多くの子供たちで賑わいました。

福岡市の方を中心に140名以上の来場者があり、視覚障害者の仕事や生活に便利な用具や支援について知識を深めていただくことができました。

最後に、後援いただいた福岡市・福岡市社会福祉協議会、出展していただいた株式会社ヨネザワ・東海光学株式会社・三菱電機住環境システム

ズ株式会社・錦城護謨株式会社・九州盲導犬協会の皆様、講演の講師として出演していただいた道下美里さん、道下さんの講演に際してお世話になった三井住友海上火災保険株式会社の皆様ご協力ありがとうございました。



視覚障害者の歩行体験

障害者週間記念講演

12月8日(木) 国民の皆様へ障害者の理解を深めてもらうことと、障害者の社会参加の意欲向上を目的に、当センターにて障害者週間記念講演を実施しました。

講演には「リオパラリンピックを終えて見えてきたもの」と題しまして、障害者スポーツ選手雇用促進センターシーズアスリート所属小宮正江選手(ゴールボール日本代表)をお招きしました。

講演では小宮選手が視覚障害を発症してからゴールボール選手になるまで、パラリンピックでメダルを取得するために積み重ねてきたこと、そ

してパラリンピックに4回出場して学んだこと等についてお話していただきました。また地域住民の方にご協力していた



だき、目が見えないとはどのような感じなのか、また目が見えない状態ではどのような行動をすればいいのかといったことを体験していただく場面もあり、参加者の障害者への理解が一層深まったように感じました。

最後に、東京パラリンピックメダル獲得に向けて頑張っていきますということをお話していただき、我々も全力で応援していきたいと思います。





センターに関するQ&A

Q：自立訓練（機能訓練）の対象となるのはどんな人で、どんな訓練を行いますか？

A：当センターの自立訓練の対象者は主に視覚障害のある15歳以上の方です。訓練期間は1か月から18か月以内で、訓練終了後、家庭復帰、原職復帰、就学継続、新規就労、就労移行支援など個々の目標に応じた進路へ進むことが前提となります。そのため、一人ひとりの目標に応

じた選択的な訓練内容となります。

なお、社会復帰に向けての訓練が主体ですので、まず、なにかしらの自宅生活ができていること、施設内での単独生活が可能であることが原則です。参考までに、訓練期間の平均は5か月程度です。

まずは、訓練を受けてみようと思いついたら、すぐにご相談ください。

利用者募集

1 当センターが提供する施設障害福祉サービス

サービス名	サービス内容	利用開始日	利用申請受付
自立訓練（機能訓練）	歩行訓練、点字訓練、パソコン訓練、タブレット訓練、日常生活訓練（身辺処理・調理等）、スポーツ訓練、視覚的補助具の紹介、教養等	随時（原則として月曜日）	随時
就労移行支援（養成施設）	あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師の国家試験受験資格取得に向けた学習、進路支援等	毎年度4月上旬	年3回

※通所が困難な方に、宿舎・食事・生活支援等を行う「施設入所支援」サービスも提供しています。

2 利用に関するお問い合わせ

サービス内容や利用料等の詳細、パンフレット・紹介ビデオ（DVD）等の送付、施設利用のお申込み、見学をご希望の方は、下記までお気軽にお問い合わせください。

電話：092-807-2844（支援課直通）

092-806-1361（代表）

Eメール：shienka-fukuoka@rehab.go.jp



編集後記

専門課程2年 K. A

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

気が付けば早くもセンター生活2年が過ぎてしまいました。私たちもいよいよ臨床実習に入る訳で少々不安を感じていますが卒業生の皆さんはこれからは本番、もっと不安や希望を感じておられることでしょう。何事も前向きに考えて、頑張ってください。時々顔を

出されて近況など教えてください。

専門課程2年 Y. O

ご卒業おめでとうございます。

思えば入所前の待機期間の長かったことを思い出します。

不安に待ち焦がれ入所その後のオリエンテーション、これも随分長く感じました。しかし、いざ勉強が始まるとあまりの難しさに根を上げそうになったこと、進級する度に先が思いやられ不安ばかりが募り卒業その事など考えることもまだ及びませんが、2年間一緒に過ごしてきた皆さんなら大丈夫だと確信しています。

どうぞお体に気を付け頑張ってください。

